



みんなの議会



令和6年3月24日 千曲市誕生20周年記念「ちくま第九演奏会～響かせよう よろこびの歌～」がことぶきアリーナで開催されました。1,700人を超える来場者があり、ちくま第九合唱団の合唱と千曲市フィルハーモニー管弦楽団の演奏が会場一杯に響きわたる素晴らしいコンサートでした。

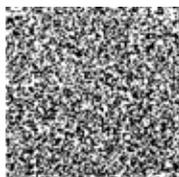
議会基本条例 を制定しました・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

3月定例会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

代表質問・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

個人質問・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

請願・討論・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14



(音声コード)



議会基本条例ってどんなもの。

千曲市議会基本条例は、議会や議員の活動原則、情報公開や広報広聴活動を充実させること、議員同士が十分に議論を尽くす議会運営をすること、積極的に政策提案することなど、そして、これらを実施するための体制整備について定めています。
議会基本条例は、「市民に対する議会の約束」として、議会の役割と責任を示した地方議会の憲法ともいえる条例です。



議会基本条例ができると、何が変わるの。

千曲市議会がさらに機能を充実・強化し、市民のみなさんにとって身近な存在になります。これまでさまざまな議会改革を進めてきましたが、みなさんにもっと開かれた、わかりやすい議会として責任を果たしていきたいと考えています。



千曲市議会基本条例のポイントを教えて。

千曲市議会基本条例では、行政監視、政策立案、民意吸収などの議会機能を活性化させ、市民のみなさんの負託に応えられるよう、次のような内容を定めました。

- ◆市民と議会が意見交換する場を設けます。(第6条)
- ◆議会活動に関する情報を積極的に発信します。(第7条)
- ◆市の施策・計画・予算などに対するチェックを充実させます。(第9条、第10条)
- ◆議長・副議長の選出にあたり、市民に対して所信表明する機会を設けます。(第12条)
- ◆大規模災害などの非常時にも議会機能を維持できるようにします。(第15条)
- ◆議員間の討議・討論を充実させます。(第17条、第18条)
- ◆先端技術の活用により、効率的な議会運営を行います。(第24条)



千曲市議会基本条例を制定

地方創生の時代にあつて、議会の役割はますます重要になっています。
千曲市議会では、議会改革の実践を積み上げながら、これからの議会のあり方について議論を重ね、前文と26の条文からなる議会基本条例にまとめました。



※千曲市議会基本条例の全文と解説、制定までの経過を市議会ホームページに掲載しています。



千曲市議会基本条例・前文 ～抜粋～

地方公共団体の意思決定機関である議会は、監視、調査、政策立案及び立法の機能強化が求められる中、千曲市議会は議会改革を進めてきた。

議会は、日本国憲法がうたう地方自治の下、市民から負託を受けた市長と共に、二元代表制の一翼として将来を見据え、市民の意思を把握し、実現するために責任ある役割を担っている。また、自治体政策の立案、決定、執行、評価での論点を明確にし、市民に開かれた市政を目指す責務を有する。

更に、合議制である議会は、多様な意見を集約するため、市民との対話を根幹に、法令等を遵守し、自由闊達な討議を重ね、その審議経過を市民に積極的に公開するよう努めなければならない。

千曲市議会は、市民の負託に全力で応える決意の下に議会の役割を果たすため、高い倫理観を持ち、より質の高い議会を目指し、ここに議会の最高規範として議会基本条例を制定する。

条例の構成

前文

第1章

総則 (第1条・第2条)

第2章

議会及び議員の活動原則 (第3条—第5条)

第3章

議会と市民の関係 (第6条・第7条)

第4章

議会と市長等の関係 (第8条—第11条)

第5章

議会運営 (第12条・第13条)

第6章

議会の機能強化 (第14条—第20条)

第7章

議会改革の推進 (第21条)

第8章

議会の体制整備 (第22条—第24条)

第9章

補則 (第25条・第26条)

附則

令和6年3月定例会

千曲市のこんなことが決まりました。

■会期 25日間（2月20日～3月15日）

3月定例会の議案は

市長提出議案	32件
委員会提出議案	2件
議員提出議案	1件
請願・陳情	2件

議案等の審議の結果は、千曲市ホームページをご覧ください。議会事務局へお問い合わせください。賛否が分かれた議案の各議員の賛否は、市議会ホームページの「議会日程」の中で公表しています。

Pick up 1

総務文教 常任委員会

地域クラブ活動体制整備事業 （千曲坂城クラブ）について

中学校部活動の円滑な地域移行を実現し、将来にわたる生徒がスポーツ・文化芸術活動に親しむ機会を確保できるよう、地域と連携した部活動の地域移行体制を構築する事業に2485万4千円の予算が計上された。

Q 千曲坂城クラブ設立の目的は。

A 中学校部活動の円滑な地域移行を実現し、すべての子どもたちに、スポーツ・文化芸術環境を保障することを目的に設立した。

Q 千曲坂城クラブの概要と活動内容は。

A 会員921名、指導者183名が令和5年4月より、15の専門部で休日を中心に活動している。



千曲坂城クラブの様子とロゴマーク

Q 千曲坂城クラブ運営の課題は。

A 様々な課題はあるが、最大の課題は、安定した財源の確保である。昨年秋季より賛助会員の募集、ふるさと納税の活用も始めている。

Pick up 2

福祉環境 常任委員会

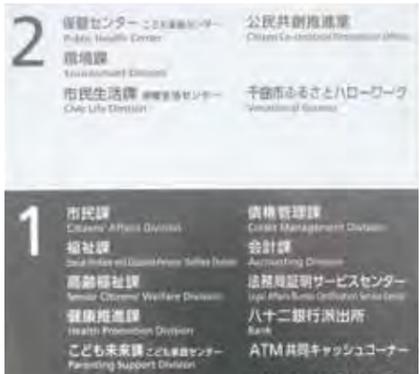
千曲市子ども家庭センター設置 について

児童福祉法の一部が改正され、すべての妊産婦、子育て世帯、子どもに関し相談及びサポートを一体的に行う機関として「子ども家庭センター」の設置が市町村において努力義務とされた。

千曲市は令和6年4月1日より「子ども家庭センター」を設置する。

Q センター業務が2つの課にまたがるが、職員体制や役割分担はどうなるのか。

A 両課をまたいだセンター長1名、子ども未来課（1階）と健康推進課（2階）に各1名の統括支援員を配置する。どちらの窓口でも相談に対応し、適切な支援ができる体制を整えている。



千曲市子ども家庭センターを設置

Pick up 3

建設経済 常任委員会

千曲市の今後の農業政策について

人口減少に伴い、今後、荒廃農地・遊休農地（耕作放棄地）が増加することが見込まれる。農業の後継者不足問題をどのように対策していくのかは大きな課題である。

Q 荒廃農地対策を行っているが、今後の千曲市の方針は。

A 地域計画策定業務委託料に300万円計上したが、今後、地域の農地が適切に利用されなくなることが懸念される。そのため地域での話し合いにより、将来の農地利用の姿を明確化する地域計画を定め、地域内外から農地の受け手を幅広く確保しつつ、農地の集約化を推進していく。



地域の農業を守る



一般質問

代表質問

会派を代表した議員が、市長の施政方針や予算案等に対して行う質問。毎年3月の定例会において実施。

ここに掲載する原稿は、質問者の責任において提出されたものです。

今定例会では、5名の会派代表者が質問しました。

1回目

一括質問一括答弁方式

2回目以降

大項目ごとに一問一答方式

再質問は1つの大項目につき2回まで



一志会代表
吉池明彦

令和6年度予算について

将来への投資を含めさらに大型予算であるが財政規律の厳守と財政検証は行ったか。

予算編成方針にある諸項目と各種指標が早期健全化基準を下回っていることを確認した。

公民連携の強化「共創」について

共創する新たな市民サービスには過疎化地域への公共交通のあり方等、新たなサービスも含まれるのか。

新たな「公民共創推進室」はSIC周辺整備や新体育館などハード面以外にも今後全国的な先進事例なども参考に、健康福祉・農林・観光・環境など様々な諸施策についても調査研究を進める。

公共工事費の精査と見直しについて

一重山2号線や(仮称)屋



大正橋下流右岸道路面の雨水対策用アスカーブ(アスファルト製縁石)

代SICの工事費用の増額が大きいが見積り算出には専門職の経験や知識が活かされているか。

設計・積算・工事監督・完了検査では専門知識や経験のある職員が従事している。工事の設計や積算は国の基準や県の積算システムも利用し精度を高めている。

大正橋から下流右岸の堤防道路の管理について

雨水浸透対策でさらに幅員が狭くなる。千曲橋下流右岸の様に大型車両の通行制限を再度強く要請する。

重量や通行制限は隣接する生コン工場があるため直ちに行うことは難しく、これまで警察への要請はしていない。



自由政策研究会代表
和田英幸

(仮称)屋代スマートインターチェンジ(SIC)建設について

事業化が決定され、国やネクスコとの協議会が開催され建設工着手に向けて動き出した。市への要望と完成見込みは。

協議会では地元自治体として用地取得や埋蔵文化財調査が事業工程に影響のないようしっかりと進めるよう言われている。国は示していないが、他の事例から供用開始まで7、8年かかる。

屋代地区など周辺への渋滞対策は。

倉科踏切周辺の渋滞解消等の交通安全確保が課題であるが、対策として都市計画道路一重山線の全線整備が極めて重要である。



新政クラブ代表
中村眞一

令和6年度当初予算と財政面の検証について

令和6年度当初予算が309億5千万円に拡大した理由は何か。

建設工事費の急騰と事業推進のための必要予算を計上したほか、児童手当の拡充などによるものである。

財政面からみて、財源不足から繰入金総額が25億円になり、このうち財政調整基金の取り崩しが9億円にのぼる。また市債が増大し、依存財源が58・7%に拡大したが、歳入面の問題はないか。

公共施設の改築や耐震化、解体などを実施することや地方債の償還がピークを迎えることから、基金を計画的に繰り入れるものだ。また起債も交付税措置の有利な起債を中心に借り入れているので、現時点では問題はない。

総合運動公園構想(野球場建設)について

迅速な市営野球場整備を。

令和10年開催の国民スポーツ大会にハンドボール会場として使用できるよう新戸倉体育館を整備し、国民スポーツ大会終了後に現戸倉体育館を解体し、その後早急に野球場整備ができるよう順次準備を進める。

屋代小学校旧本館の改修計画について

保存改修工事に向けた実施計画の内容は。

令和6年度に耐震補強、活用に向けた改修を行う実施設計に着手する。改修工事の内容は屋根・外壁・基礎など建物全体の耐震補強、内装、空調等の設備改修を行う。設備等の改修にあたっては「屋代小学校旧本館の保存活用を進める会」からの提言を踏まえ実施設計に反映していく。

(仮称)屋代SICと都市計画道路一重山線について

屋代SIC事業の費用対効果は。

市の費用負担は約24億円で、整備されると企業立地が急速に進む各産業拠点からの、アクセス性の向上や災害時の緊急輸送道路としての整備効果が期待される。早い供用開始を目指すと同時に、SIC利用車両の実績等も定期的に報告する。

都市計画道路一重山線の現状と実現性は。

市道一重山2号線の先線で、県立歴史館前から一重山及びしなの鉄道を越えて、国道18号線打沢交差点までと、その先新田南交差点までの道路計画及び都市計画に必要な地形測量を実施した。また可能な限り早期事業化を図れるよう進める。

【その他の質問】

- 新戸倉体育館建設
- 「地域防災拠点・道の駅」整備事業



早稲大学中野団代表
前田 きみ子

令和6年度予算案について

Q 一般会計予算案は、309億5千万円で、過去2番目の規模である。新戸倉体育館建設は市民目線から言うと、必要性が高いものなのか、「人口6万弱の千曲市に2つの立派な体育館はいらない」の声が聞こえてくるが。

A 大型事業の実施にあたっては、当然、財源の確保と市財政への影響を考慮して判断していく。

福祉避難所に当事者の声を

Q 19号台風時の避難時の検証は行われたのか。当事者や家族は、避難できないと言っており、不安はぬぐえない。当事者の声を聞いているのではないか。

A 現在、障がいのある方については、支援会議などの際に、災害時の避難方法などについて、個別の確認を進めている。今後も引き続き、当事者の声を聞く機会を設け、お聞きしたご意見を取り入れながら、福祉避難所の充実を図る。

通学路の安全について

Q 県道内川姨捨停車場線にあるグリーンベルトや、稲荷山の市道、県道77号から西へ通じる市道のグリーンベルトは、雪が降ると雪に覆われ危険である。

A 歩道の除雪については、各地区・地域及びPTAのご理解ご協力をお願いしたい。

【その他の質問】

- 高齢難聴者に補聴器の助成を
- ごども家庭センターについて



一般質問

ここに掲載する原稿は、質問者の責任において提出されたものです。

個人質問

市議会議員個人が、市の行政全般にわたって、市長・教育長等の方針について、答弁を求めるもの。

今定例会では、
10名の議員が質問しました。

千曲市議会公式ユーチューブチャンネルで、一般質問の全ての内容を動画で視聴することができます。

ぜひご覧ください。
(動画は一般質問の約2週間後から配信されます。)



議会公式チャンネル

千曲市議会ユーチューブ

検索



公明党代表
柳澤 眞由美

将来への投資と財源の涵養策について

Q 公共施設の更新・除却・長寿命化にあたり令和4年改訂版では「学校は地域の中核施設であることを鑑み、施設更新をする際は他の機能を学校に集約する対応を検討する」と示された。築52年経過の治田小学校の周辺施設は、築47年の桑原保育園、築49年の稲荷山保育園、築44年の稲荷山児童センター、築46年の稲荷山公民館があり、思い切った集約できる可能性がある。公共施設再編により保育環境の格差解消と学校施設の複合化は、未来への投資になる。耐震化した2つの保育施設も、いずれ民間へ貸与・売却等財源を生み出す施設になるが市長の所見を伺う。

A 提案の「ごどもが安心して育ち学ぶ環境整備」は、移

住する重要な要件となるだけでなく、定住を促す効果も期待できるため、中長期視点に立って進めていく必要がある。治田小を軸とした複合施設は、利便性の向上や建設による短期的な経済効果をもたらす可能性が高い。今後、治田小学校は耐力度調査を行い、長寿命化を図る予定である。周辺の施設は、当面は適切な維持管理のもと使用を継続する。

【その他の質問】

- 能登半島地震の被害を踏まえ、市民の安全を高める備えの強化は
- 女性の視点・障がい者の視点からみた災害への備えは
- ごども未来戦略について市の男性育休取得の現状と今後の目標
- 市民満足度を高めるおくやみコーナーとハンドブック新設を

るが、呼称の使用も含めどう対処したか。

A 呼称については中間教室から教育支援センターへ、適応指導員は指導員に変更。引き続き不登校を含む長期欠席児童生徒の社会的自立に向けて指導援助に努めていく。運用面でも在籍学校に関わらず全ての教室に通室できるようにするなど、より利用しやすい居場所となるよう努めていく。

災害時におけるトイレの問題について

Q 今回の能登半島地震の教訓として、公衆トイレを防災トイレの機能を備える構造にする考えはあるか。

A 公衆トイレに防災トイレとしての機能・設備を備えることは、災害時のトイレ問題の検討を進めるうえで必要である。避難所におけるトイレ確保と併せ、在宅避難者のトイレ確保を含めた全体的な計画を検討する中で、公衆トイレについても関係部署と連携し、対応する災害や必要な設備などについても検討していく。

河川対策について



自由政策研究会
聖澤 多貴雄

Q 大正橋付近の堤防強化工事について。当該地域は学校、保育園、住宅密集地であり地元区長はじめ住民からは堤防への不安がある。恒久的な堤防強化工事を望む切実な声に対してどのように応えていくか。

A 今後も地元の皆様が無事安心な暮らしができるよう、堤防の拡幅、浸透対策、河道掘削を国へ要望していく。

教育問題について

Q 屋代南高校を現在の校地に存続させるための方策は。

A 今後懇話会の中で千曲市の主張を展開して相互理解を深め、現在の場所に高校を残すことを求めていく。

Q 中間教室設置要綱は平成15年当時のものであり現状にそぐわないものになってい



自由政策研究会
倉島 さやか

防災意識の向上について

Q 女性の視点を活かした避難所運営と備蓄品配備について、これまでの避難所では育児、介護、女性用品は多くのところで不足し、また女性用デリケート物資が人目のつくところに置かれていたり、渡し方に配慮が欠けていた事案が多々起きています。市としての対応策は。

A 女性職員や関係部署と連携し、物資の選定、調達をしていく。避難所開設時には女性職員を配置し、デリケート物資に十分配慮して取り扱うようにしていく。

Q 保護者が帰宅困難者になった場合の保育園や小中学校での対応、備蓄品の確保は。

A 小中学校では、保護者が迎えに来るまでは児童生徒を学校で待機をさせる。保護者代理の登録もしている。保育園では早期お迎え措置をとる。しかし、保護者が帰宅困難となることも想定されるので避難所等については早急に検討する。各園の備蓄品についても早急に協議をしていく。

【その他の質問】

○「特定分野に特異な才能のある児童への支援」について
○メタバースの活用について



経済産業省発行 想定外から子どもを守る保育施設のための防災ハンドブック

つから実施するのか。

A 現在5人以上の生産者組織が機械等を購入する際には市で1割を補助しているが、増額は難しいため国の補助事業を勧める。花卉・きのこ生産者への電気代高騰対策事業は年度内に交付決定する。

屋代開発について

Q 屋代SICの事業化が決まったが、市民の中には「なぜ更地1Cから2キロの地点に必要なのか」との疑問の声が多い。市はSIC整備で「人・モノ・文化」を市内全域に波及できるのか。

A 一重山2号線の先線がしなの鉄道、国道18号線を越えて八幡、上山田まで将来開通した場合には波及できると考えている。

Q

一重山2号線と国道403号線の交差点整備では建物補償費が一年間で1.4億円から17.7億円となったが、このような異常な増額は過去にもあったか。

A

過去には例がない。



一志会
川嶋 敬信

防災について

Q 能登半島地震を踏まえた市の防災訓練の計画は。

A 避難訓練をはじめ避難所の開設運営訓練などにより、災害時の行動確認や意識の醸成ができるよう、より実践的な訓練を計画する。

Q 防災拠点と情報の共有は。

A 市庁舎を応援職員受入拠点、体育施設3か所を物資輸送拠点、中学校4か所を医療救護拠点、公園施設3か所を拠点ヘリポートとし、災害対応にあたる。災害情報、避難情報の伝達・共有については訓練を通じて情報共有ができるよう努める。

千曲市の組織体制について

Q 今後の市の組織体制は。

A 風通しの良い組織づくりを進める中で活発な議論、現場からの政策提案に繋がる



一志会
田中 秀樹

ステップ期のGIGAスクール構想は

Q 構想がスタートして3年、千曲市は長野県内のトップランナーとなっている。今後、教員の働き方改革につながる校務のDXをどのように進めていくか。

A 市では校務支援システムを令和2年度から導入し、名簿の一括管理や指導要録の電子保存など有効な活用について指導主事が各校を支援してきた。令和3年度からは、家庭連絡アプリによって児童生徒の欠席連絡を簡便化し、教職員による朝の電話当番がなくなった。現在は中学校の定期テストにおいて、採点支援システムの試験導入を行っており、採点にかかる負担の軽減を図っている。

Q 個別最適な学びを、どのように学力向上につなげていくか。

ことが理想なので実現に向け努める。

外部団体との連携について

A 外部団体の事業内容を常に把握し、必要に応じて指導・助言を行うなど連携の強化に努めている。

予算と契約について

Q 長野県では建設工事早期契約制度を実施し、工事の平準化をしているが市の対応は。

A 建設業への支援に向け、国や県などの情報を得ながら、効果的な制度導入の検討を進める。

Q

令和2年度に市内の防犯灯をLED化したのが、リース会社が元請けで、東京の工事会社と器具メーカーだったが、なぜなのか。

A 区・自治会役員などの負担減を図るため、公募型プロポーザルを行い、リース契約にした。公共施設の維持管理の効率化は喫緊の課題であるが、今後はリースによるメリット・デメリットで判断する。

A

構想では「学び方を学ぶ」と「重要視しており、一人一台端末を有効に活用しながら、個に応じた学びができるよう進めていきたい。

財政規律の堅持について

Q 新規事業や既存事業の拡充を実施するためには、スワップ&ビルドの原則に基づき、既存事業の中止・縮小が行われることが重要だ。令和6年度予算編成における事業見直しの状況は。

A 中止した事業では、公共施設個別施設計画に基づいて旧更埴庁舎、旧ふれあい福祉センターなどを廃止し、関連する経費を削減した。縮小したものとしては、補助金のあり方を見直し、敬老祝事業補助金を区・自治会が主催する敬老祝い会への参加者数に応じた補助金事業とすることで縮減を図った。



一志会
宮下 繁明

地域間格差の解消について

Q 合併後20年間の旧市町別の投入事業費は、全体485億円の内、上山田地区への事業費は25.5億円で5.3%にすぎない。旧更埴川東地区に比べて川西地区も少ない。内川・杭瀬下等の川東地区の人口は増えているが、上山田・更級・八幡の川西地区は20%以上減少している。市内の均衡ある発展のため、上山田を始め川西地区への投資をどのように考えているか。

A 川西地区へは地域防災拠点、道の駅の整備を進める。上山田地区については、これから設立される戸倉上山田温泉まちづくり協議会と連携して基盤整備を進める。

市内の農業支援について

Q 中山間地の農家を支援するため、高額な農業機械の購入への補助金を増やすべきではないか。花卉・きのこ生産者への電気代補助はい



自由政策研究会
林 慶太郎

〔仮称〕屋代S-I-Cと屋代地区開発について

Q 屋代S-I-C供用開始時期の想定は。

A 現段階で国は時期を示していない。他の事例では事業化決定から7、8年程度かかっているのでは、こちらを一つの目安として考えている。

Q 屋代S-I-C整備と屋代地区開発の効果をどのように発信していくか。

A 令和6年度策定予定の「仮称」屋代S-I-Cを活用した魅力あるまちづくり方針により、雇用や税収、自主財源の確保となる全市への効果を市報等を通じて広く発信していく。

一重山線について

Q 整備促進のスケジュールは。

A 一重山2号線は、令和10年度完成を目指す。市道打沢新道線は、地形測量が完了し、令和6年度より国道18号打沢交差点から殖生本線までの区間の路線測量、地質調査と詳細設計を実施する。県立歴史館前から殖生本線までの区間は、千曲建設事務所と協議を重ね、屋代S-I-Cや、一重山2号線が供用されるまでには事業化が図られるよう努める。

【その他の質問】

○公民共創のまちづくりについて



屋代S-I-C整備事業設置予定地

現を目指していく。

地域間格差解消の施策は

Q 合併20年が経過し、川東地区の発展に対し川西地区は衰退している。対策は。

A ハード面では八幡地区の「姨捨S-I-Cのフル規格化」、国道18号バイパス沿いの「地域防災拠点・道の駅」の整備、上山田地区は都市計画道路を含む基盤整備を進めていく。

Q 地域の産業が業績を上げ地域経済が活性化することに

A より税収増、人口減少抑制につながる。地域企業が閉業しないよう地場産業のマーケット拡大支援が必要だ。

A ふるさと納税の返礼品や地域経済活性化支援に加え、

当市への進出企業との「ビジネスマッチング」など新たな支援を実施していく。



日本共産党千曲市議員
中村 恒彦

安全な生活を守る

Q 千曲川戸倉地区右岸堤防住宅側が弱く、越水したら危険だ。安全性は。

A 住宅側へ雨水排水を流さないことで、堤体の浸食防止を図る。引き続き重点的に監視していく。

Q 総合運動公園の河川敷エリアの整備で、流下能力が低下し越水の危険性が高まる。河道断面積のデータを示さないか。

A 運動公園の整備内容は未決定。治水上の支障とならないよう整備する。河道断面積のデータを示せるよう河川事務所と協議する。

Q 能登半島地震の犠牲者の9割は家屋倒壊による。千曲市の耐震診断の利用状況と対策は。

A 無料耐震診断は令和5年度までに、1741件実施。耐震性に劣る住宅に対して



自由政策研究会
荻原 光太郎

令和6年度施政方針と予算案への期待と課題

Q 市の強みを発信する方策は。

A 3月に移住検討者向けの専用ホームページを公開し、「オンラインでの移住相談会」の開催により気軽に相談できるようにする。

Q サテライトオフィスについて何う。

A 市内の民間施設を改修する費用の一部を補助する。オフィスを利用する企業のうち県外企業を50%以上と設定し、公募で1事業者による1施設を選定する。

Q 新戸倉体育館建設のPFI方式の実現性は。

A 建設設計、運営などの事業者と直接対話し意見交換を行った。現時点でPFI方式での事業実施は十分可能との意見があり、注目度が高いと認識している。また、アドバイザー業務を行う

経費の一部を助成している。住宅の部分的なシェルター化や耐震ベッドへの補助について検討していく。

特殊詐欺から市民を守る

Q 振り込む前に気軽に相談ができるよう、消費生活センターや警察署などの電話番号と注意の要点を書いたシールを配布したらどうか。

A シールは有効だ。「お金の話は全部詐欺」のような標語を添え、連絡先を示すのは一つの案だ。

商店街街路灯について

Q 商店街街路灯管理団体に対するアンケート結果と今後の方向性は。

A 先行きに不安を抱える団体が多い。街路灯の維持管理に対する支援策の拡充を検討する。

【その他の質問】

○能登半島地震の支援について
○市の避難所運営における女性の視点からの配慮について

「みずほリサーチ&テクノロジーズ・KRC共同企業体」が民間事業者への市場調査やヒアリングを実施している。

シティプロモーションと観光振興

Q PR大使鬼越トマホークの役割は何か。

A 観光にとらわれず千曲市の魅力を広く発信し、市が主催または参加するイベントなどに協力するもので、ユーザー等を活用したPR活動をお願いする。

Q 漸減する飲食店への支援策を何う。

A これまで消費喚起、資金繰りなどの事業を行ってきた。今後も経済状況を見て支援策を研究する。事業承継や空き店舗活用開業、創業者の相談窓口などの支援に努めている。

Q 宿泊税導入の考えはないか。

A 観光振興の財源確保は重要だが、市の独自導入には十分な議論が必要だ。



新政クラブ
北川原 晃

市長が目指す「千曲市の将来の姿」とは

Q 世界を震撼させた新型コロナウイルス感染症や地震、水害等の自然災害、ウクライナや中東ガザ地区の戦争など、近年の社会情勢の変化を目的の当たりにし、人々は「平穏で普通の暮らしがいに幸せか」を改めて実感した。市長が目指す未来を見据えた千曲市像は。

A 山積する課題解決に向けた子育て支援や福祉の充実のためには、安定的な財源が必要だ。「屋代地区のS-I-Cや産業連携道路整備」「新戸倉体育館の整備」「地域防災拠点・道の駅整備」などの大型ハード事業は20年

先、30年先の将来を見据えた事業だ。福祉の充実など市民生活の質を向上させ、市民の皆さんが「心豊かに笑顔で暮らせるまち」の実

令和6年度予算案 討論

このような理由で賛成・反対しました。

一般会計予算案 採決結果：可決

反対 中村 恒彦

予算案では、第3子以降の保育料無償化による負担軽減、非課税世帯の産後ケア無償化事業、50歳以上の胃内視鏡健診事業等、積極的に支持できる事業が多く含まれており、これらに反対するものではない。

しかし、一般会計から国民健康保険特別会計に繰り出されている一部が赤字補填に充てられているが、高すぎる保険料を下げるためのものではない。

また、競輪場外車券売場から受け取る収入を環境整備事業基金として積み立てるとしている。私たちは、手続き上の問題、ギャンブル依存症、青少年への影響や地域経済への影響などから、競輪場の設置自体に一貫して反対してきたので賛成できない。

以上の点から、一般会計予算案に反対する。

賛成 荻原光太郎

令和6年度は地方債の償還がピークを迎える中、過去2番目の大規模予算となった。歳入では国の定額減税の影響で個人市民税は減収だが、固定資産税、普通交付税は増収を見込む。歳出では「こども家庭センター」の新設、保育所整備、学校給食費負担軽減などの子育て支援、(仮称)屋代SICを活用したまちづくり、新戸倉体育館建設、地域防災拠点と道の駅整備、将来への投資として産業連携ネットワーク道路整備などの事業費が盛り込まれ、市の成長に不可欠だ。市の強みを活かす魅力を高め市の発展、税収増による市民福祉の向上につながる予算と期待し賛成する。

反対 宮下 繁明

令和6年度予算309億円は第三次総合計画の財政計画の262億円から47億円も多い。現在進めている屋代開発や新戸倉体育館、市民球場等の大型事業は未確定のものも含めると200億以上になると思われる。健全財政が維持できるのか。第二の夕張市になるのではと憂慮する。屋代地区の開発は事業計画が無く費用対効果の検証がないまま進められており、稼ごどころか莫大な赤字になることは明白。市道一重山2号線の先線になる一重山にトンネルを通すことは技術的にも費用的にも困難であり不可能に近く、産業連携道路ネットワークは夢物語。実力以上の過大な借金を将来世代に残してはならない。

国民健康保険特別会計予算案 採決結果：可決

反対 前田きみ子

6年前に行われた国民健康保険の「都道府県化」により、国保の財政は都道府県が管理し、各市町村の「標準保険料」を通知している。保険料水準の提示は市町村の値上げの圧力となっていて、このことにより協会けんぽの2倍になっている。

失業、病気、事業不振などで、国保税が払えなくなった国保加入者に追い打ちをかけ、滞納者からの「保険証取り上げ」などは医療を受ける権利を奪うことになる。国保の赤字補填のため、一般会計からの「事務費等繰入金」2218万6千円が予算化されているが、払える額の保険料に引き上げるための繰り入れにすべきとの理由から反対する。



公明党
滝沢 清人

全ての市民のQOL (Quality of Life) 向上

Q 国内最大の課題、危機的少子化と人口減少、世界一の高齢化社会にあって、市が重く担うべきは「高齢者を中心とした市民のQOL向上」で、いつまでも健康で生きがいを持って充実した生活を送り、地域のQOL向上にも繋がる「AI健康アプリ」の活用研究を始めるべきだ。

A 市では「健康寿命の延伸・健康格差の縮小」を目標に、健康（ヘルス）アップ千曲21（第三次）を新年度からスタートする。現在研究している「地域通貨・ポイント制度導入」などと合わせて研究していく。

Q 能登大震災を教訓に対策強化を

元日に発生した能登半島大震災は、29年前の阪神・淡路大震災を彷彿とさせる大

震災となった。一方で、29年前の教訓が活かされていないことが問題で、全国の自治体で危機管理や備蓄など見直しが進んでいるが、当市の受け止めを伺う。

A 市では能登地震を受け、避難場所の拡充と備蓄品の充実を図るなど対策を強化する。住宅耐震化では補助拡充、耐震シェルター購入補助も検討している。また、いつ何時の緊急事態にも対応する早期避難所開設へ、職員の緊急配置タイムライン充実と訓練も行っていく。さらに応援支援チームや専門ボランティアの受入れ等について検討する。



緊急消防援助隊 千曲坂城消防本部の宿営地状況 (珠洲市消防署にて)

請願 陳情

請願第1号 辺野古基地建設工事を中止し、沖縄県及び米国政府との話し合いを求め意見書を国に求める請願

採決結果：不採択

賛成討論 中村 恒彦

米軍普天間基地移設先の名護市辺野古沖は、軟弱地盤の最大深度が90mもあり、埋め立て工事は世界でも例がない難工事。太平洋戦争で沖縄は本土を守る捨て石とされ、県民の4人に1人が犠牲となった。戦後も国土の0.8%にすぎない沖縄に米軍基地の75%が集中している。沖縄県は、国が提出した設計変更申請を不承認としたが、国は代行により承認し工事に着手した。地方自治の本旨は、地域のことは国の干渉を受けることなく、自らの判断と責任の下に行政を行うことである。

新基地建設に反対、これが沖縄の民意。国は工事を中止し、双方と話し合っべきだ。

※詳しくは、千曲市ホームページをご覧ください。議会事務局へお問い合わせください。



千曲市キャラクター
『あん姫』



和田 久佳さん
(内川)

全国から人々が集まる千曲市へ

千曲市で生まれ育ち40数年暮らしてきましたが、とても住みやすく、普段の暮らしの中では不満を感じることはありませんでした。しかし子育て世代の1人として、休日に子ども達が安心して遊べる娯楽施設が少ないこと、また市外の知人から千曲市の良い所などを聞かれた時に自信を持って紹介できる場所を迷ってしまうとも感じています。

より暮らしやすく、更に活性化していくためには、一つの大きな目玉となる施設があった方が良いのではと思います。中途半端な規模ではなく、全国でも誇れるような商業施設、レジャー施設等の娯楽施設があれば、交通の要衝という強みを活かして全国から人々が集まり、今ある千曲市の素晴らしい観光資源などもより活かすことが出来るのではないかと思います。

より良い千曲市にしていくために、市民の思いを反映し、市民と行政・議会が一体となれるよう期待しています。

次回 6 月 定例会予定

(会期 18日間)

日	月	火	水	木	金	土
5/26	27 本会議 開 会	28	29	30	31	6/1
2	3 本会議	4 本会議	5 本会議	6 委員会	7 委員会	8 委員会
	一般質問 (個人)	一般質問 (個人)	一般質問 (個人)	総務文教	福祉環境	
9	10 委員会 建設経済	11	12	13 本会議 委員長報告 討論・採決	14	15
16	17	18	19	20	21	22

※議事の都合により、日程が変更される場合があります。

議会を動画で見よう

本会議の様子は、約2週間後からパソコンやスマートフォンなどでご覧いただけます。



議会公式チャンネル

千曲市議会ユーチューブ

検 索

議会だよりについてご意見をお寄せください

『みんなの議会』のさらなる充実をめざし、読者アンケートを実施します!

右記コードを読み取り、アンケートにご回答ください。

みなさまの貴重なご意見をお待ちしています。



アンケートはこちら



本定例会では、千曲市議会基本条例が制定されました。本条例の制定を機に、千曲市議会ではさらなる議会改革に取り組みます。議会広報特別委員会としても、市民の意思が市政に反映される真の地方自治の実現を目指し、多くの方が議会と市政に関心を持てる広報・広聴活動に努めます。

(林 慶太郎)

議会広報特別委員会

委員長 田中 秀樹
副委員長 中村 恒彦
委員 金井 文彦
中村 眞一
滝沢 清人
吉池 明彦
川嶋 敬信
林 慶太郎